

カミナガさんとホタルのおはなし

それは今から10年前。ほたリウムができる前のお話。

「ホタルの光を、一年中みんなに見せてあげたい！」 飼育係の神長さんは、そんな夢を抱いていました。

ホタルは、とてもとても繊細ないきものです。

神長さんは、そんなホタルを一年中見られるようにするため、

来る日も来る日も、研究をかさね、ホタルの部屋の温度を一定に保ち、

水を替え、餌を与え、日照時間を調節し…昼夜を問わず、一生懸命ホタルを育てていました。

そんなある日、夜中までホタルの世話をしていた神長さん。うっかり飼育室で居眠りをしてしまいました。

「……はっ！しまった！ホタルたちは？」

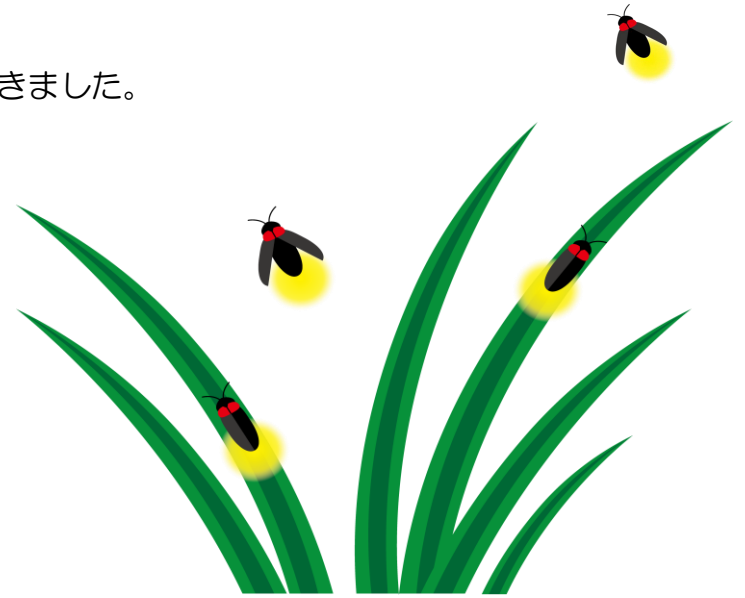
どれくらい眠ってしまったのでしょうか。 神長さんが目をさますと、神長さんの前に、ぼうっと光が輝きました。

「……え？君は？」

そこには、人間のような姿をした、不思議なホタルが立っていました。

「ぼくの名前は…カミナガさん！」 そのホタルは言いました。

「か、カミナガさん？それは僕の名前じゃないか」





「そうだよ。だって、僕は、君の分身だもの。君の、『ホタルの光りを、一年中みんなに見せてあげたい』っていう夢と、愛と情熱がホタルの姿になって、僕が生まれたんだよ」

そして、そのホタルのカミナガさんは続けました。

「僕の使命は、ホタルの素晴らしさを人間みんなに伝えること。そして、そのための施設『ほたリウム』を作ることさ！」

「ほ、ほたリウム？」

「そう！」そう答えたホタルのカミナガさんのお尻が、きらっと光りました。

それからしばらくして、東武動物公園に『ほたリウム』は誕生しました。

飼育係の神長さんは、それから毎日、ホタルの世話をし続けています。



ホタロウくん



カミナガさん



ホタコちゃん

ホタロウくんとホタコちゃんは、「カミナガさん」の仕事をお手伝いするためにホタルの国からやってきたホタルの兄妹です。
みんなに、ホタルの光の素晴らしさ、ホタルが暮らす日本の自然の素晴らしさを伝えるために、毎日がんばっています。